

五料防災公園の整備を求む



高橋 茂樹



町長

事業手法等を研究していく

質問 五料防災公園の整備が必要と思うが町の考えは。

答弁 町長 災害時に一時的に避難ができるような防犯的な役割を持つ公園については重要な施設であると認識しており、引き続き、町内の避難施設や公共施設の配置、事業手法及び管理方法など研究していきたいと考えている。

質問 浸水被害低減のため、大型排水ポンプ車を配備する考えは。

答弁 町長 想定される矢川樋管周辺道路や堤防上の道路が狭く、車両の配置が困難となることから、樋管の動力電源用電柱にコンセントを設置し、災害発生時に大型排水ポンプをレンタルにより事前に手配して排水を行い、これにより、排水ポンプ車と同様な効果が得られるものと考えている。



排水ポンプの設置イメージ

質問 コロナ禍における避難所計画は

答弁 町長 新型コロナウイルス感染防止対策を考えた避難所計画とその周知は。

答弁 町長 避難所開設運営の計画については、利根川、烏川の上流域の水位上昇や降雨の状況から本町における水害発生リスクを判断し、早めの避難情報を発令することとする。また、

た、夜間や風雨が強い中の避難を避け、自宅の2階や親戚・知人宅等への避難など、様々な避難方法を周知している。

避難所の運営については、受入時の体温、健康チェック、消毒やマスク装着の徹底を行った上で、健康に問題のない避難者と体調不良等の避難者が滞在する場所を明確に分けて滞在してもらう。また、感染が疑われる避難者エリアには、段ボールパーティションで仕切りを設置し、健康に問題のない避難者エリアについてもソーシャルディスタンスに配慮したレイアウトとしている。

周知についても、コロナ禍での今後の避難の在り方についてまとめた「避難行動判定フロー」を作成し、広報たまむら7月号とともに住民に配布等している。

こんな質問もしています
・新型コロナウイルスの今後の課題について

20年後を見据え町長のビジョンは



原 利幸



町長

調和と安心、未来に希望が持てる町

質問 玉村町の20年後、町長はどのようなビジョンを持っているのか。もしくは、ビジョンは必要ないと考えているのか。

答弁 町長 玉村町が20年後も玉村町らしさを失わずに発展していくためには、「まち・ひと・しごと」の創生が重要であると考えている。交通の利便性を活かした産業団地誘致や首都圏などの交流機会を創出する観光施設の整備・活用、ふるさとを感じさせる上毛三山の眺望と緑豊かな田園景観、そういったものが調和し、暮らす人、働く人が安心して生活できるような未来に希望が持てる町にしていく。

質問 新しい商業地等の開発は

答弁 町長 国道354号の沿線開発は、多くの人たちが必要と考えている。特に沿線住民としては商業施設や住宅地が近くに欲しいという話を多く聞く。



商業集積候補地

質問 両水跡地から東に向かい南玉公民館までの区域が、商業集積地や新しい住宅地の候補と考えるがどうか。

答弁 町長 両水の跡地及びその西側の約5000平方メートルについては、両水の跡地という条件をうまく活用できるように、県の関係機関との協議・相談や、町が目指す土地利用方針や農地保全の考え方などの整理を行いながら、可能な土地利用を考えていきたいと思ってい

区長要望への対応は

質問 区長からの要望はどのような内容が多いのか。

答弁 町長 道路や水路の修繕、除草、カーブミラーなど、特に土木関係が多い。

質問 どのように優先順位を付け、実行されているのか。

答弁 町長 危険性、緊急性が高いものは早急に対応している。予算の関係や技術的に施工が難しい等により実施できない場合は、翌年度以降に引き継いでいる。

こんな質問もしています
・来年度予算について